

信頼関係の深まりで
利用者の心がひらく。

寄り添いケア、待つケア、包み込むケア の実践より生まれたもの

発表者

あすなろ園柏台デイサービスセンター風の家

センター長 井ノ上 晃彦

共同研究者 看護師 赤澤 早百合

取り組んだ課題

- 感情や表現、他者との交流を閉ざした物静かな
認知症利用者A子さん(女性)



寄り添いケア・待つケア・包み込むケア
を実践する。



感情や表現の回復、他者との交流の回復を目指す。

3ケアの説明

- **寄り添いケア** ■■■ 利用者と共に寄り添い心穏やかに同じ空気を感じながら、同じ時間を過ごし、その時の利用者のしぐさや言葉、行動などから気づきを得るケア、そしてその気づきを実践できるように考え、行動に移すケア
- **待つケア** ■■■■ ひとつひとつのケアに関して、利用者自身が納得し受け入れられるまで、じっくり時間を掛け、声掛けや、しぐさで伝えるケア、又、職員はケアを実施した後、そのケアを振り返り、少しでも拒否反応がみられればそのケアを一時中断し、その後も拒否反応が続く場合は中止し、代替ケアや新しいケアを考え実践するケア
※拒否反応・・・不安な表情、身体のこわばり、怒り、暴力など
- **包み込むケア** ■■■ 利用者の手を優しくにぎる。背中を優しくさする。優しいシャワーのような声掛けで身体を包みこむケア、又利用者の精神面においても職員が寄り添うことで、心の安定を図り、利用者の笑顔や感情を引き出すケア

具体的な取り組み

- A子さんのペースで寄り添い
安心感を与え続けること
- A子さんのために何事も待つこと
- A子さんを家族のように思い、
包み込むこと

A子さんの様子や反応

利用初日・・・少し不安そうな緊張した様子
うつむき挨拶にも返事がない。



入浴後・・・すっきり、さっぱりした様子で、職員
の挨拶に笑顔を見せる。



この時よりA子さんとの信頼関係が
芽生える。⇒待つケア・包み込むケアも
始める。

A子さんの様子や反応

利用開始から4日目

・・・まだ発語は見られなかったが、A子さんの手に触れたり、背中をさする時に、緊張感や不安な様子がなく、満面の笑み(安心に満ちた笑顔)を見せてくれる。



信頼関係の深まりを感じる。

A子さんの様子や反応

利用開始から5日目

- ・・・今まで発語が無く表情だけニコニコされていたA子さんが、職員に『**ありがとう**』と声を掛けてくれる。



職員も『**言葉で伝えてくれてありがとう。**』と返すと、とても素敵な笑顔（**喜びにみちた笑顔**）をみせてくる。



信頼関係の深まりの強さ、**閉ざされた心がとけ始める。**

A子さんの心がとける。

A子さんの閉ざされた心がとけ始めると、
利用開始より7日目

・・・嬉しい時に声に出して笑い、ウキウキな感じを身体でも表現してくれる。

利用開始より14日目

・・・集団の中では緊張しやすいA子さんが、
集団の輪に溶け込み他の利用者と交流を楽しむ。

A子さんの心がひらく。

利用開始20日目

・・・A子さんは、『ここに来て楽しい、うれしい、良かった。』『あなたが優しい』としっかりとした声で職員に伝えてくれる。

利用開始28日目

・・・A子さんの心が開かれ、職員だけでなく、他の利用者にも、短い言葉ではあるが、『おいしいね』『これおたべ』と声を掛けて笑顔をみせてくれる。

その後の利用も

・・・A子さん自身がデイサービスを楽しみに来てくれるようになる。

A子さんの昔を取り戻す

A子さんの心が開くことで、
昔の自分を取り戻す。

利用から6ヶ月頃より

・・・A子さんの趣味であつ
た編み物(鉤針)で楽
しむことができる。



折り紙やクッキングなども
楽しめるようになる。

まとめ

□ 信頼関係の積み重ねの大切さ

寄り添いケア、待つケア、包み込むケアを職員が意識してしっかりと継続することで、利用者との信頼関係が生まれ、その信頼関係の積み重ね(深まり)が利用者の心を開く。

□ 昔の記憶の再建と再生の喜び

心を開くことで、心の内に秘めていた感情、表現、言葉、昔取った杵柄(趣味)など引き出し、実行することで本人の喜びに繋がる。

□ 共に生きる喜び

集団レクリエーションの導入の時期をしっかりと見極め、利用者が安心してレクリエーションに参加できることで、他の利用者との交流を深める。それにより、デイサービスでの生活が豊かになり、利用者の人生がより一層輝くものとなる。

私達の思い

- 認知症の利用者は、病気が進行することで物事が分からなくなります。認知症の利用者は、とても繊細で、一見すれば気難しい、訳が分からないと思われていることも多くありますが、利用者自身は、日々記憶が薄れる中で、何とかしたいと苦慮し、物事が理解できない不安、目の前の人分からない不安にとっても苦しんでいます。
- しかし、風の家に来られる利用者は、そのような不安を抱えながらも、職員の顔を覚えて下さり、いつも素敵な笑顔を見せてくれます。また利用者自身が出来なかったことが出来た時には、職員と一緒にうれし涙を流すこともあります。
- 私が思うことは、認知症になり、脳が記憶できなくなっても、私たちのことを心に刻んで記憶してくれていると、とても強く感じています。

おわりに

- 今後も、利用者に寄り添い、待つケア、包み込むケアで、心穏やかに生活できるようにご家族の皆様と共に頑張って参りたいと思います。

□ご静聴ありがとうございました。